



日仏交流160周年
160^e Anniversaire
des relations
franco-japonaises

2018年9月吉日

プレスリリース

公益財団法人 日動美術財団

笠間日動美術館

日仏友好 160 周年・没後 50 年

藤田 嗣 治 と陽気な仲間たち

Tsuguharu Foujita and his Companions

2018年10月6日(土) **開幕!**

12月16日(日)まで



Portrait de Léonard Foujita vers 1930 ©Fondation Foujita ADAGP Paris.

謹啓 時下ますます御清祥のこととお慶び申し上げます。
笠間日動美術館では、没後 50 年を迎えてますます評価の高まる画家
藤田嗣治に焦点をあて 10 月 6 日、表記展覧会を開幕します。
開催に際しましては、茨城県が友好提携を結ぶエソンヌ県(フランス共
和国)に共催名義を賜り、関連資料の提供をいただきました。
会場では藤田が晩年に暮らしたエソンヌ県のアトリエや同県の様子な
どを、動画やパネルで紹介いたします。
つきましては、以下に展覧会の詳細をご案内いたしますので、ご取
材・ご紹介などのご協力を賜りますようお願い申し上げます。 謹白



開催趣旨

1913 年に渡仏した藤田嗣治(1886-1968)は芸術の都パリで研鑽を重ね、乳白色の絵肌に日本の筆で線描する画風を確立します。藤田は、その芸術のみならず、独特の風貌と洒脱な言動で、社交界においても華々しく活躍しました。アトリエには日本人画家も多く訪れ、海老原喜之助、高野三三男らからは「オヤジ」と呼び慕われたと言われていました。第二次大戦中は祖国で制作を行いましたが、戦後は渡仏し、パリ時代を彷彿とさせる女性像や可愛らしい子どもの肖像を明るい色彩で描きました。1955 年には帰化し、カトリックの洗礼を受け、レオナール・フジタと改名しています。

本展では、藤田を中心にエコール・ド・パリの画家や日本人画家の作品を4つの章に分けて展示します。これらの作品から動乱の時代をともに生きた画家たちとの交流をたどり、日仏両国で名声を得た藤田嗣治の生涯を紐解くものです。

This exhibition aims to praise the great works of Foujita Tsuguharu, a painter who succeeded in France and Japan. Also, this exhibition is memorializing 160th anniversary of relation between France and Japan. They will be four chapters, exhibiting the works of Ecole de Paris and Japanese artists with a focus on Foujita.

In 1913, Foujita left for France, to improve himself in the floral city of Paris where artists with various nationalities lived in. He created he's own style, which was drawing on the "milky white" canvas with Japanese brush. Many Japanese painters visited Foujita who became a shining art star of the Ecole de Paris. With his guidance some Japanese artists like Ebihara Kinosuke, Kono Misao succeed in Paris. Foujita stayed in Europe during World War I , however, after the outbreak of World War II, he was forced to go back to Japan. He continued painting with his companion's art group "Nika-kai". After the war, he went back to France though America, and in 1955, he became a naturalized French citizen. Later, Foujita was baptized as a Catholic, and changed his name to Leonard Foujita.

The exhibition will trace how Foujita succeeded in Japan and France, by exhibiting his and his friend's artworks.

展覧会の構成

序 章 東京美術学校 日本洋画の先達たち

藤田が学んだ東京美術学校の教授らの作品を展示し、洋画における当時の美術思潮を紹介する。

【展示作家及び作品】

- 1.黒田清輝「厨房」1892年
- 2.藤島武二「造花」1901年
- 3.和田英作「少女新聞を読む」
1897年
- 4.和田英作「思郷」1902年
- 5.田邊 至「放牛」1908年
(以上、東京藝術大学蔵)
- 6.岡田三郎助「縫いとり」1914年



1



6

第1章 パリ画壇にて エコール・ド・パリの仲間たち

藤田を中心にエコール・ド・パリの画家たちの作品を展示し、往時のパリ画壇の動向とともに、「フーフー/FOUFU」(お調子者の意)と呼ばれて人気を博した藤田の活躍ぶりを紹介する。

【展示作家及び作品】 藤田嗣治、パブロ・ピカソ、モイーズ・キスリング、オシップ・ザッキン、
海老原喜之助、高野三三男ら



7. モーリス・ユトリロ 「アベスの広場」

1922 年頃 笠間日動美術館蔵



8. マリー・ローランサン 「二人の女」

20 世紀前半 東京富士美術館蔵



9. シャイム・スーチン

「路上の二人の子供」1939 年
笠間日動美術館蔵

第2章 祖国にて 日本洋画壇の仲間たち

1934 年から 38 年の帰国時における藤田の仕事を中心に、二科会の仲間や藤田を「オヤジ」と呼び慕った日本人画家らの作品を展示。また似顔絵の名手でもあった藤田が彼らをモデルに描いたユーモアあふれる作品や外務省と国際映画協会の要請により藤田が制作した映画「現代日本」（1937 年）を紹介する。

【展示作家】 藤田嗣治、熊谷守一、宮本三郎、野間仁根、北川民次、木下義謙ら

第3章 藤田嗣治からレオナール・フジタへ

1949 年アメリカを經由して渡仏し、のちフランスに帰化した藤田晩年の作品に加え、ヴィリエール＝バクル（エソンヌ県）における生活を動画やパネルで紹介する。

※ 藤田嗣治作品の掲載にあたっては、お問い合わせください。

展覧会の概要

- ・展覧会名 「日仏友好 160 周年・没後 50 年 藤田嗣治と陽気な仲間たち」
- ・会 期 2018 年 10 月 6 日(土)～12 月 16 日(日)
- ・会 場 笠間日動美術館 企画展示館(笠間市笠間 978-4)
- ・開館時間 午前 9 時 30 分より午後 5 時(入館受付は 4 時 30 分まで)
- ・休 館 日 毎週月曜日(但し 10/8 は開館、10/9 は休館)
- ・入 館 料 大人 1000 円、65 歳以上 800 円、大学・高校生 700 円、中学・小学生無料
(20 名以上の団体は各 200 円割引、障害者手帳をお持ちの方、その同伴者 1 名は各半額割引)
春風萬里荘(北大路魯山人旧居)との共通券 大人 1,400 円、65 歳以上 1,100 円
大学・高校生 900 円、中学・小学生無料、(20 名以上の団体は各 200 円割引、
障害者手帳をお持ちの方、その同伴者 1 名は半額割引)
- ・主 催 公益財団法人 日動美術財団 笠間日動美術館
- ・共 催 エソンヌ県(フランス共和国)

- ・後援 在日フランス大使館／アンスティチュ・フランセ日本／茨城県／茨城県教育委員会／
笠間市／笠間市教育委員会／茨城放送／茨城新聞社／朝日新聞水戸総局／
産経新聞水戸支局／東京新聞水戸支局／毎日新聞水戸支局／読売新聞水戸支局／
東日本旅客鉄道株式会社水戸支社
- ・特別協賛 関彰商事株式会社
- ・協賛 戸田建設株式会社

会期中のイベント ※いずれも別途入館料

- ・特別対談会 講師:長谷川徳七(当館館長)長谷川智恵子(同副館長) 10月27日(土)14:00～15:00
- ・ギャラリートーク 10月7日(日)、11月17日(土)、12月8日(土) 各日14:00開始
- ・プチコンサート 各日14:00開始
 - 10月6日(土) 茨響 VUOTA／10月13日(土) つくば近代詩曲の会
 - 11月4日(日) ファミリーオ／12月1日(土) ティンクルライヤー水戸
- ・夢境庵茶会(春風萬里荘) 11月17日(土) 10:00～16:00
席主／表千家 原田勝子 料金／500円(お菓子・抹茶付き)

交通案内

[JR 利用]

- ・常磐線友部駅(9:55/10:50/11:50 発)より『かさま観光周遊バス』(100円) または
市内循環バスで約15分。「日動美術館入口」下車徒歩2分。
- ・水戸線笠間駅より徒歩約20分(日動美術館・春風萬里荘共、但し方向は逆)
『かさま観光周遊バス』またはレンタサイクルの利用が便利です。

[自動車利用]

- ・常磐道友部 JCT 経由、北関東道友部 IC より国道 355 号線経由約 6 km
- ・東北道栃木都賀 JCT 経由、北関東道笠間西 IC より国道 50 号線経由約 8 km

[高速バス利用]

- ・『関東やきものライナー』秋葉原駅中央改札口前、東口交通広場(8:20 発)で約2時間弱。
*座席予約制(空席がある場合は予約無しで乗車可)
「笠間稲荷神社入口」下車徒歩5分(片道1600円、往復2800円)

問い合わせ先(担当:亀山／西尾／金澤)

〒309-1611 茨城県笠間市笠間 978-4 笠間日動美術館

TEL:0296-72-2160 FAX:0296-72-5655 MAIL:k-museum@nichido-museum.or.jp

以上